

開講学部	国際食料資源学特別コース	授業形態	実習
授業科目	海外研修 Oversea Training	開講期	3期
		単位数	2
キーワード	海外研修、語学研修、コミュニケーション能力		
ナンバリング			
担当教員	教員室	質問受付時間	
石崎宗周		木曜日16:00～17:00	
授業科目区分	国際食料資源学特別コース／必修		
学修目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーション能力の強化</li> <li>・これまでの学習の自己評価とこれからの学習計画をたてる</li> <li>・国際的視野を広げる</li> <li>・海外で安全に活動に必要な基礎素養の習得</li> </ul>		
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィリピンまたはインドネシアでの語学研修</li> <li>・JICAフィリピン事務所等、国際機関等の視察</li> </ul>		
講義計画	<p>第1回 事前学習（渡航準備1）</p> <p>第2回 事前学習（渡航準備2）</p> <p>第3回 事前学習（渡航準備3）</p> <p>第4回 事前学習（渡航準備4）</p> <p>第5回 国際協力機関の役割と技術協力の現状</p> <p>第6回 語学強化メニュー1</p> <p>第7回 語学強化メニュー2</p> <p>第8回 語学強化メニュー3</p> <p>第9回 渡航先の水産業の現状</p> <p>第10回 渡航先の農業の現状</p> <p>第11回 市場調査</p> <p>第12回 施設見学1</p> <p>第13回 施設見学2</p> <p>第14回 プレゼンテーション</p> <p>第15回 成果発表会（帰国後）</p>		
授業外学修（予習・復習）	毎回、講師から予習・復習の指示があります。		
教科書・参考書	研修時に配布します。		
注意事項	<p>実際にフィリピンまたはインドネシアに渡航しての語学研修です。事前・事後学習を除き、8月または9月に集中形式（14日間程度）で実施します。履修には、渡航費用や現地での活動および生活費が必要です。実施済みの履修説明会に出席していない場合は履修できません。事前学習（必須）は、土曜日の午前中に1回実施し、その際に決めた日程で3回実施します。FBによるコミュニケーションが必須です。説明会での説明の通り、語学力のある学生は渡航先を選択できますが、語学力の低い学生の渡航先はフィリピンとなります。</p>		
履修要件	<p>実用英語A、B、Cを履修済みであり、Dを履修すること</p> <p>説明会に出席し、研修内容を十分に理解すること</p> <p>保護者の参加同意が得られること</p> <p>渡航先への入国条件をみたくこと</p>		
関連事項	実用英語		
成績の評価基準	学習目標への到達度で評価します。		

および評価方法	これらは、事前学習、成果報告、帰国報告書および各活動を通して評価します。
アクティブ・ラーニング	グループワーク / ディベート / プレゼンテーション / 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等)
アクティブ・ラーニング (授業回数)	全 15 回中 14 回で実施
SDGs推進取組事項	
実務経験のある教員 による実践的授業	

開講学部	国際食料資源学特別コース		授業形態	講義
授業科目	国際経済論 International Economics		開講期	6
			単位数	2
キーワード	比較優位、機会費用、国際分業、相対価格、交易条件、所得分配、関税			
ナンバリング				
担当教員	教員室	質問受付時間		
カムチャイライサミ	(非常勤)	授業直後の時間に質問に対応します。		
授業科目区分	国際食料資源学特別コース必修科目			
学修目標	国際貿易の理論と政策を学び、貿易の動機や仕組みなどを理解するための糧とする。			
授業概要	国際経済は国と国の間の経済活動を取り扱う。貿易はその中核的な存在。国はなぜ貿易をするのか。その利益はあるのか。また、国はなぜ関税を設けなければならないのか、等々。授業が進むにつれてその答えが明らかになる。			
講義計画	<p>第1回 国際経済学とは何か</p> <p>第2回 世界貿易の概観</p> <p>第3回 リカード・モデル</p> <p>第4回 相対価格・相対賃金と国際分業</p> <p>第5回 特殊要素と所得分配</p> <p>第6回 貿易と国際労働移動</p> <p>第7回 ヘクシャー＝オリーン・モデル</p> <p>第8回 貿易の標準モデル</p> <p>第9回 所得移転と交易条件</p> <p>第10回 外部経済と貿易</p> <p>第11回 不完全競争と貿易</p> <p>第12回 貿易政策の手段</p> <p>第13回 貿易政策の政治経済</p> <p>第14回 発展途上国の貿易政策</p> <p>第15回 貿易の交渉と協調</p>			
授業外学修(予習・復習)	授業前後に必ず合計で4時間程度の予習・復習を行うこと。			
教科書・参考書	P.R.クルーグマン/M.オブズフェルド/M.J.メリッツ [著] [2017] 『クルーグマン 国際経済学—理論と政策—〈上〉貿易編』 (原書第10版) 丸善出版 ISBN: 978-4-621-30057-2			
注意事項	私語など授業妨害行為は減点の対象とする。			
履修要件				
関連事項				
成績の評価基準および評価方法	期末試験 (100%)			
アクティブ・ラーニング	学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)	全 15 回中 2 回で実施			
SDGs推進取組事項				
実務経験のある教員による実践的授業				

開講学部	国際食料資源学特別コース		授業形態	講義
授業科目	国際関係法概論 Introduction to International Relations Law		開講期	6
			単位数	2
キーワード	国際法、海洋法、国際環境法、国連			
ナンバリング				
担当教員	教員室	質問受付時間		
大森 正仁	(非常勤)	授業直後の時間に質問に対応します。		
授業科目区分	国際食料資源学特別コース必修科目			
学修目標	国際関係において生じている様々な状況を法的な観点から眺め、その解決にどのような手段が用いられているのかについて基本的な事項の理解を目標とします。			
授業概要	現在の国際社会がどのようなものであるかを考えながら、それを律している規範である条約、慣習法がどのようなものであるか、また、国家、国際機構、個人がいかなる意味を有しているのかについて授業で明らかにします。			
講義計画	<p>第1回 国際関係法とは何か。国際法と国際私法の違いに焦点をあてながら、国際関係法の意義について説明を行います。また、国際社会の現在を理解するために国連のSDG'sについて概要を見て行きます。</p> <p>第2回 国際法上の主体に関する理解を深めるために、法主体とは何かを検討します。1933年のモンテビデオ条約の規定に沿って国の要件を確認したのちに国家承認について説明をします。</p> <p>第3回 日本は朝鮮民主主義共和国を承認していませんが、日本との関係についてどのように考えるのかを事例を参照しながら受講者と検討します。</p> <p>第4回 国の要件のひとつである領土の問題を検討します。領土に関する一般的な国際法原則を説明し、個別の事例として日本の領土問題を取りあげてこれまでの状況を説明するとともに、現在も存在するとされる北方領土、竹島、尖閣などについて説明をします。</p> <p>第5回 領土問題を取りあげて、対立する主張を理解するために、受講生にグループワークを行ってもらい、その結果に基づいてディベートをします。</p> <p>第6回 国際法における法源とは何かについて、その意味を検討しながら中心的な役割を果たしている条約について説明をします。具体的に締結をされた条約を参照しながら理解を深めます。</p> <p>第7回 成立した条約の解釈について、どのような原則があるのかを説明しながら、条約に付される留保がいかなる効果を有しているのかを明らかにします。その際に具体的な条約として1982年の国連海洋法条約を取りあげます。</p> <p>第8回 国際法の法源として依然重要であるとされる国際慣習法とは何か、どのような要件を満たして成立するのか、また、条約と慣習法との関係をどのように捉えるのかについて説明を行います。</p> <p>第9回 国際社会において戦争および武力行使の違法化が進められて来たのはどのような過程を経ているのかについて、歴史的な状況を踏まえながら説明をします。</p> <p>第10回 国際紛争の平和的解決手続について説明し、国際紛争が解決されるために創られて来た制度の理解を深めます。</p> <p>第11回 オランダのハーグにある国際司法裁判所とはどのような機能を果たしているのかについて、設立の経緯と具体的な事例を取りあげながら理解をして行きます。</p> <p>第12回 ディベート課題：国際紛争を解決するためには、国際紛争の平和的解決手続は普遍的なものが望ましいのか、地域的なものが望ましいのか。</p> <p>第13回 日本がその歴史において国際的な問題として裁判で争った事件を検討します。また、現在でも大きな影響を有している第二次世界大戦の戦後処理としての対日平和条約について取りあげ、日本の置かれている状況を理解する一助とします。</p> <p>第14回 国際環境法という分野でどのような問題が取りあげられているのかについて説明をした上で、それぞれの分野において発展をしてきた主要な原則について理解を深めて行きます。</p>			

	第 回 国際社会における食料資源をめぐる諸問題がどのような状況にあるのかを把握し、それらの問題に対してどのような対応をして行くのが望ましいのかの提言を受講生から行ってもらいます。	
授業外学修（予習・復習）	国際社会の動きに注目をして国際的なニュースを読む習慣をつけて下さい。条約の内容について触れてみてください。	
教科書・参考書	位田・最上編『コンサイス条約集』（三省堂、第2版、2015年）	
注意事項		
履修要件		
関連事項		
成績の評価基準および評価方法	小テスト20%、授業内での発言30%、レポート50%	
アクティブ・ラーニング	グループワーク / ディベート / プレゼンテーション	
アクティブ・ラーニング (授業回数)	全15回中4回で実施	
SDGs推進取組事項		
実務経験のある教員による実践的授業		

開講学部	国際食料資源学特別コース		授業形態	講義
授業科目	国際食料関係論		開講期	6期
			単位数	2
キーワード				
ナンバリング				
担当教員	教員室		質問受付時間	
豊智行	農学部研究棟D5141室		在室中は随時	
授業科目区分				
学修目標	<p>1. 農業生産の技術的特徴と地域における生産要素の賦存量に基づく地域農業の優位性、農業発展の方策を理解する。</p> <p>2. 貿易の意義と貿易制度の変化の影響を理解する。</p> <p>3. 各国における農業生産、食料消費、食料貿易の動向を把握できるようになる。</p>			
授業概要	<p>経済学に基づき、農業発展の諸理論、農業の他産業と比較した生産技術の特徴、土地・労働・資本の賦存量や経済発展水準の異なる国における農業の優位性と役割、農産物貿易の政策効果について、講義する。また、国際農業・食料の動向を分析する。</p>			
講義計画	<p>第1回 発展の諸理論と農業の役割</p> <p>第2回 農業システムとその決定因</p> <p>第3回 農業発展の諸理論と方策</p> <p>第4回 貿易の意義と貿易パターンの決定に関する理論（その1）</p> <p>第5回 貿易の意義と貿易パターンの決定に関する理論（その2）</p> <p>第6回 世界貿易体制の変遷</p> <p>第7回 完全競争下の貿易制度の効果と経済厚生への影響（その1）</p> <p>第8回 完全競争下の貿易制度の効果と経済厚生への影響（その2）</p> <p>第9回 不完全競争の貿易への影響</p> <p>第10回 中間試験</p> <p>第11回 各国農業の生産分析（その1）</p> <p>第12回 各国農業の生産分析（その2）</p> <p>第13回 各国の食料消費、食料貿易の分析（その1）</p> <p>第14回 各国の食料消費、食料貿易の分析（その2）</p> <p>第15回 海外の農業に関する報告と議論</p>			
授業外学修（予習・復習）	理解度確認課題への取り組み 統計分析			
教科書・参考書	板書と配布資料をもとに講義			
注意事項	<p>【参考書】</p> <p>P.R.クルーグマン, M.オブストフェルド, M.J.メリッツ著『クルーグマン国際経済学理論と政策』丸善出版</p> <p>高増明・野口旭著『国際経済学理論と現実』ナカニシヤ出版</p> <p>G.W.ノートン, J.オルワン, W.A.マスターズ著 板橋啓四郎訳『農業開発の経済学 世界のフードシステムと資源利用』</p>			
履修要件				
関連事項				
成績の評価基準および評価方法	<p>1. 受講態度 (30%)</p> <p>2. 中間試験 (40%)</p> <p>3. 演習課題 (30%)</p>			
アクティブ・ラーニング	ディベート / その他 [演習への取り組み]			

アクティブ・ラーニング (授業回数)	全 15 回中 5 回で実施
SDGs推進取組事項	
実務経験のある教員 による実践的授業	

開講学部	国際食料資源学特別コース		授業形態	講義
授業科目	実用英語 E Practical English E		開講期	6
			単位数	2
キーワード				
ナンバリング				
担当教員	教員室	質問受付時間		
松元貴子	(非常勤)	授業直後の時間に質問に対応します。		
授業科目区分	国際食料資源学特別コース必修			
学修目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジネスシーンで自分のことを英語でアピールできる。</li> <li>2. 英語での簡単なプレゼンテーションできる。</li> <li>3. いくつかのシーンでのビジネスレター・Eメールを書ける。</li> <li>4. ビジネスシーンで使われる英語表現を習得する。</li> </ol>			
授業概要	ビジネスシーンで自己アピール、簡単なプレゼンできるための英語表現を学ぶ。ビジネスレター・Eメールの作成、ビジネスシーンで使われる英語表現を学ぶ。			
講義計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 イントロダクション (1) 自分のことについて</p> <p>第3回 イントロダクション (2) 自分のことについて</p> <p>第4回 プレゼンテーション (1) 会社について</p> <p>第5回 プレゼンテーション (2) 会社について</p> <p>第6回 プレゼンテーション実践</p> <p>第7回 プレゼンテーション実践</p> <p>第8回 履歴書</p> <p>第9回 カバーレター</p> <p>第10回 英文レター・Eメールライティング (1)</p> <p>第11回 英文レター・Eメールライティング (2)</p> <p>第12回 ビジネスレター</p> <p>第13回 ビジネスレター</p> <p>第14回 インタビュー (1)</p> <p>第15回 インタビュー (2)</p>			
授業外学修 (予習・復習)	授業では説明と基本的な演習を行います。授業中の演習だけでは、各テストの合格は難しく自宅での学習・演習が必要となります。			
教科書・参考書	講義時間に必要に応じて紹介されます。			
注意事項				
履修要件				
関連事項				
成績の評価基準および評価方法	授業内で行う演習・小テスト・実践テストに加え、提出物と期末テストで評価します。			
アクティブ・ラーニング	グループワーク / プレゼンテーション / 学習の振り返り (ミニッツ・ペーパー等)			
アクティブ・ラーニング (授業回数)	全 15 回中 5 回で実施			
SDGs推進取組事項				
実務経験のある教員				

による実践的授業

開講学部	国際食料資源学特別コース	授業形態	卒論・修士研究
授業科目	卒業プロジェクト	開講期	7,8
		単位数	6
ナンバリング			
卒業研究方針	<p>&lt;卒業プロジェクト方針&gt; 指導教員と相談の上、以下のうち1つを選択する。</p> <p>1. 海外プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>海外プロジェクトでは、指導教員と学生が相談の上で取り組む課題と目標を設定し、プロジェクト計画を立案して通算で30日以上海外での活動を行なう。</li> <li>学生自身の創意・工夫が必要であり、指導教員はこれらの支援および助言を行なう。</li> <li>海外プロジェクトは、講義、実験、演習すべての要素を内包しているため、単位数とは関わりなく、その習得には1年の期間を必要とする。</li> </ul> <p>2. 卒業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指導教員の所属する分野の方針に従い、卒業研究を進め、卒業論文の作成・発表を行なう。</li> <li>指導教員の所属する分野の卒業研究のシラバスを参照すること。</li> </ul>		
	<p>卒業研究スケジュール</p> <p>4月上旬 卒業プロジェクト開始 Early April Start Graduation Project</p> <p>1. 海外プロジェクト</p> <p>随時（出発二ヶ月前）計画書（日本語）の提出 2 months before leaving Japan: submit the plan/proposal (Japanese)</p> <p>1月中旬 報告要旨（英語）の提出 Mid January submit the abstract (English)</p> <p>2月上旬 報告発表会（英語で口頭発表） Early Feb Oral presentation at the debriefing session (English)</p> <p>2月下旬 報告書（日・英いずれか）の提出 Late Feb submit the written report (Japanese or English)</p> <p>2. 卒業研究</p> <p>指導教員の所属する分野の卒業研究のシラバスを参照し、指導教員に確認すること。</p>		
実験計画	<p>学生は農学部・水産学部に所属する教員の指導を主に受けつつ、卒業プロジェクト課題に取り組む。各教員の近年の活動地域・活動内容・研究実績については、各学部ホームページ等で確認できる。</p>		
履修要件	卒業プロジェクト開始に必要な単位数を満たしていること。		
合格基準	<p>1. 海外プロジェクト プロジェクト報告会にて口頭発表を行ない、指定期日までに報告書を提出すること。</p> <p>2. 卒業研究 指導教員の所属する分野の卒業研究の合格基準に準ずる。</p>		
アクティブ・ラーニング	グループワーク / ディベート / フィールドワーク / プレゼンテーション / 学習の振り返り（ミニッツ・ペーパー等）		
アクティブ・ラーニング （授業回数）	全45回中45回で実施		
SDGs推進取組事項			
実務経験のある教員 による実践的授業			

